1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2276700172		
法人名	有限会社　旬彩亭		
事業所名	グループホーム旬彩		
所在地	静岡県磐田市今之浦１－１－１３		
自己評価作成日	平成22年12月7日	評価結果市町村受理日	平成２３年３月２５日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2276700172&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社　福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町４－１
訪問調査日	平成23年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者一人一人の尊厳を守り、穏やかで安心した日常生活を営むことができるよう支援いたします。
ご利用者の住み慣れた地域のもう一つの自分の家として過ごせるように、共に歩み姿勢で誠意あるサービスを提供します。
ご利用者の特性に配慮した居心地の良い環境を提供します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

昨年より新しい管理者を迎えた開設9年目のグループホームである。管理者は、利用者の尊厳を守ることを基本とした上で、全職員に個々の目標を持たせ、全員が協力し日々の介護を行っている。また、理念を掘り下げ日々の実践目標として「笑顔の仲間」を掲げ、全職員が利用者と共に笑顔で過ごす居心地のよいホームとなるよう努力している。施設周辺には遊歩道や複数の公園があり、散歩を日常的活動としている。それが近隣住民との交流の場となり、施設に足を運んでくれ差し入れを頂くまでの関係になっている。併設する小規模多機能と共用の賑やかな食堂では、毎食手作りの利用者に合った食事が提供されている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者の尊厳を守りつつ、地域との交流を深めながら居心地のいい環境を提供する」ことを理念としている。現在の理念、方針に関して管理者の介護に対する精神は職員もこれをよく理解し、日常の業務を遂行してくれている。	理念を朝礼にて確認すると共に「笑顔の仲間」を日々の実践目標に掲げている。職員への理念浸透により利用者の日常生活に安心を与え、住みよい場所になるよう努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議をはじめ、地域の行事、総会などに積極的に参加している。また「旬彩たより」を毎月発行し地域の方にお渡しし当ホームを知っていただくようにしている。	自治会に加入し、地域の祭りに参加したり毎日の散歩で顔見知りになった近隣の住民からの差し入れ等がある。毎月職員が地域の老人会に参加して情報を得る等自治会とのパイプ役となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで認知症ケアの仕方を知っていただき、この活動を通して市との連携を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度運営推進会議をはじめ、毎月発行の旬彩たよりで利用者の状況報告や話し合いを行いそこでの意見を介護サービスに活かしている。	2ヶ月に1度開催され、自治会長・民生委員・市職員・地域包括支援センター・家族に加え管理者の他職員2名が出席し、参加者の様々な意見を聴いたり職員が研修に参加した学びを発表している。	通例のメンバー構成に加えて、消防署・警察・同一建物内の一般賃貸マンション住人など様々な関係者の参加を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所の担当者に参加していただき、現在のケアサービスの取り組みを報告している。	管理者は就任後、頻繁に市の担当者に連絡・相談しており、様々な面で適切な指導を受け実践に活かしている。市の介護相談員は利用者の話を傾聴してくれており連携関係がとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員に拘束について理解してもらい、玄関の施錠・身体拘束等はしないようにしている。	職員全員が日中の玄関の施錠を含めて身体拘束について理解し、言葉にも気をつけ一切の身体拘束を行っていない。利用者の不安や混乱の要因を取り除くケアとして話をよく聴いたり音楽を一緒に聴くなど実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体的虐待はもちろん、言葉による虐待・無視・不平等差別など、日常的に走りやすいため注意している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の社会福祉協議会の会合に参加し、地域権利擁護事業について学んでいる。また、成年後見制度については、入居者の中に申請した方がおり、裁判所の職員の訪問、病院での認知能力の判断のための受診に立ち会っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な話し合いをし、納得いくまでご説明している。解約に関しては今までご家族側からの要望がほとんどなのでしこりが残らないよう努めている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に見えたときは、意見など言いやすいような雰囲気と充分時間を取って話し合っている。また、その意見要望は職員に周知しサービスの向上に努めている。	利用料金を持参できる家族には面会し、意見などを言い易い雰囲気と十分な時間を確保し、話し合いを実施している。また、毎月お便りの中に近況を詳しく知らせ家族からの連絡も受けている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社としての方針・変更点などの運営に関しては、全体のミーティングで発表し皆の意見を聞いている。また、個人的に疑問点・意見があれば聞き、内容によっては運営者に相談している。	毎月のミィーテイングにおいて誰もが意見を言いやすい雰囲気をつくっている。また、管理者は職員の意見を個別に聴く機会や場を持ち、定期的に個人面談を行い職員の意向等を把握している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常の勤務状況等を密に連絡しあい、お互いが向上するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各事業の研修・講演会にはできる限り参加するよう働きかけている。また、研修の内容については全体のミーティングのときに発表してもらい、一人のものとしないようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の事業所連絡会に参加し、他の施設との相互の交流を深めている。市内の管理者同士の連絡をもち、情報交換などをして運営に反映している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者と向かい合って納得のいくまで話し合いを行い、どうしても不明な点はご家族に連絡し、助言を頂き再度話し合いをもっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には気軽に話していただけるような雰囲気つくりを行い、話を聞く耳をもって接している。立場により内容も変わってくるので、一人だけでなく他の立場の人にも聞くように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話での相談・直接見学に来られた時、今何に困っているのかをよく聞く。その内容に応じて他のサービス・施設なども紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として常に教えられることも多く、それぞれ尊敬できる特技・長所を持っている。教えていただいたり、学んだことに関しては感謝の気持ちを素直に表していると同時に今後の介護に活かせるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度のお便りの中に入居者の近況をお知らせしたり、入居者の行動障害について記入したりしている、その件につき、ご家族より手紙や電話などがあり、問題解決に向けて話し合ったり相談に乗ったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・親戚が面会に見えられたり、電話があったときは職員から一言近況をお知らせしている。	親族・友人との手紙による関係の継続支援、墓参りの際家族とのドライブ等、馴染みの関係が途切れないように家族や友人には出来る限りホームに足を運んでもらうよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士でお互いに助け合ったり声を掛け合ったりしている姿が日常的にみられる。 （食事に行くときの声かけ、お茶の用意、食器拭き等）		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	「何かあったいつでもご相談ください」「近くまで来たらお立ち寄りください」のような声掛けをしている。また、年賀状の交換をしている。長期の入院をされている方には、定期的に見舞いに行き声を掛けている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅で過ごしていた習慣、本人の想いを大切にしている。例えば、入浴を寝る前にしたいとの希望があればそのようにしている。また、もう少し寝ていたいという方には休んでいただいている。体調不良を訴える方には本人の希望通り自室でお食事をとってもらっている。	入居前の生活歴や自宅での生活習慣を家族等から聴取し、日々の介護の中では利用者の言葉や身振り手振りから希望、意向を察知している。日勤、夜勤者間の連絡に申し送りノートを活用し情報の共有をはかっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活してこられた生活歴をご家族よりお聞きして、なるべく近い状態でのサービスを提供するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個室にてプライバシーは確保されており、談話室、事務所は出入り自由で好みの場所にいられるよう誘導している。通路にはベンチを設置し入居者同士が来る炉げるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の日常の様子、本人・ご家族の意見を聞き取り、実践するよう努力している。毎日の申し送り、全体のミーティングには職員のレポートを元に意見情報を交換しつつ介護計画を検討している。	利用者ごとに担当職員が中心となり作成した「利用者現況」等をもとに,全員が参加しカンファレンスを実施し,介護計画の作成と3ヶ月ごとの見直しを行っている。来訪時や郵送により家族の確認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日報・夜勤日報・日誌にて客観的な出来事、主観的な考察を交えて記録しており、職員は誰でも目を通すことができるようにしている。また、引継ぎ時にはその日のリーダーがその場にいない職員に連絡ノートに伝言を記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設自体がマンション形式のため、部屋も広くご家族もン入居者と共に宿泊されることがある。ご家族・親戚・友人がみえられたときは、好みの食事を作って召し上がることも出来る。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1度地域の老人会に参加させて頂いており、地域の方々と接する機会を設けている。また、民生委員の方も運営推進会議に毎回出席してくれており、時々施設にもたちよってくれる。中学生のボランティア、行事のイベント参加でボランティアの方々が協力し支援してくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院と連絡を密にして適切な医療サービスが受けれるようにしてくれている。異常・緊急時には協力医院の医師が往診にすぐ来てくれる。また、院長の携帯電話番号も教えてくれて、休日も対応ができる状況になっている。	利用者のほとんどが協力医を主治医としている。協力医等への通院は通常家族等が同伴するが、困難な時は職員が通院介助している。協力医は異常時、緊急時に往診や相談に随時対応してくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤ではあるが看護師が1名職員として勤務している。日常の入居者の健康チェック、受診の付添、急変した時は夜でも休日でも出勤してくれ体調を見てくれる。電話でも相談助言をしてくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	基本的には担当医師、ご家族の判断に任せているが、当方としてはいつ戻られてもいいように準備しその旨をお伝えしている。見舞いには時間が許す限り職員が出かけ励ましの言葉をかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に同意書を交わしもしもの時の対応についても話し合っている。ターミナルケアについて勉強会研修に参加し、よりよい支援ができるように取り組んでいる。看護師と職員と常に入居者の体調変化に注意し急変に備えている。かかりつけ医に連絡相談し助言・指導をいただいている。	入居時に重度化指針を示し同意書を交わすとともに、看護職が指針に沿った職員の研修を実施している。看護職、職員は利用者の日々の健康管理に留意し、急変時は協力医の助言、指導を受け重度化指針に従い対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故に対して勉強会を行っている。また、マニュアルも作成し職員に渡している。緊急通報時のマニュアルも作成しており、いつでも見れるように電話機のそばに貼ってある。救急救命士の資格を持つ職員の看護師に勉強会を開いてもらい学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。上階に住んでいる方にも参加していただくようお願いをしている。	年2回避難訓練を実施し、夜間想定訓練も行っている。現状、避難訓練への地域住民の参加はなく、地域の防災訓練にも参加していない。	有事の際は職員のみによる避難誘導には限界がある。防災訓練への地域住民や同一建物内の一般賃貸マンション住人の参加等、日頃からの防災面での連携、協力が期待される。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	便・尿失禁した場合はみんなのいる場所では着替えを行わず言葉にも注意している。引継ぎのときちょうどご本人がそばにいる場合は「Aさん」など個人名は出さずに呼ぶようにしている。記録は入居者の目に付かないよう保管に注意している。	「利用者の尊厳を守り・・・」という理念のもと、一人ひとりの人格を尊重し、ゆったりと余裕を持った介護を行っている。個人情報は管理室内の鍵のかかるロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉以外にも顔色や態度からも感じ取る努力をしている。にこやかに身振り手振りも交えてわかってもらうよう日頃から入居者と接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応一日のスケジュールは決まっているが、決して急かすことの無いようにしている。集団生活の中でも遅れにはこだわらず、状況が許せば皆でまつようにしている。（食事、散歩、外出、行事等）		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を保つ以外には出来る限り本人の希望通りにしている。マニキュア、化粧等その都度希望があれば手伝うようにしている。 散髪は月に1回、訪問美容に来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「何食べたい？」「何が好き？」等問いかけ、その方の好みがメニューに入れられるようにしている。食材も季節のもの、ホームの菜園で採れたものを利用し話題にしながらお出ししている。また、片付けはその方ができる範囲で一緒におこなっている。	併設する小規模多機能と共用の食堂でにぎやかに利用者と職員が食事し、利用者はテーブル拭き、お茶出し、食器拭き等できることは手伝っている。菜園で利用者も協力して収穫した野菜を、食材として使うこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は正確には測定していないが、湯呑み茶碗がほぼ100ccであり一日800～900cc摂取している。一日の水分量は健康チェックに記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、うがいを励行していると共に、折をみて口腔内を見せてもらい、気がかりな点があった場合や本人からの訴えがあった場合には協力医院に受診している。食後、義歯洗浄を職員と共に行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人一人の排泄チェック表から排泄パターンを読み取って適宜誘導するようにしている。尿意便意のない方がおり紙パンツを使用しているが頃合いをみてトイレへ誘導している。	排泄チェック表により一人ひとりの習慣、頻度等を把握し、トイレに誘導している。おむつをできるだけ使いたくないとの方針により、昼は布パンツそして夜は紙パンツを使用するよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を残しており、職員全員がチェックできる体制にある。繊維質の食品は意識して取り入れており、天気のいい日には散歩・室内では機能訓練、レクリエーション等を取り入れている。水分が不足しがちの人に対してはさりげなく補水を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は曜日、時間などは決めておらず、入りたい希望があればその方の都合に合わせて入浴していただける。入浴前にバイタルチェックを行っているのでその日に高熱だったり高血圧だったりすれば本人納得の上中止とする。	週2回の入浴を基本にするが、1日おきを希望する場合もあり、曜日、時間に拘らず利用者の希望に沿い柔軟に対応している。入浴を拒む利用者には日や時間の変更をしたり、柚子湯、入浴剤入りの入浴を勧めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身に無理がない範囲で昼夜逆転にならないよう昼間は外食・食事作り・ゲーム等に参加していただき寝られないように工夫している。夜間の巡回は物音で起こしてしまわぬように注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬台帳に薬の効用・副作用・注意点を薬のサンプルと共に記入してある。薬を頂いたときは必ず看護師による投薬チェックをしている。薬の袋に入れる紙も、朝・昼・夕・寝る前で色分けして投薬ケースに入れて誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の好きな人、野菜作りの上手な人、花作りに興味がある人等その方が張り合いが持てる役割をやっていただいている。また、カラオケの好きな人にはいつも歌えるよう準備している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム近隣の公園を日常的に活用している。その他にも、ホーム近くに遊歩道があり適度な間隔でベンチが設置されているので毎日のように散歩で利用している。季節ごとの行事を企画実行しており、外出可能な入居者と職員が見守りながら出かけている。	ホームに隣接する公園のほかいくつかの公園、遊歩道が近隣にあり、ほぼ毎日散歩をするほか、弁当持参でドライブに出掛けたり、家族等同伴のドライブも実施している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その能力のある方にはなるべく最少額で所持していただくようにしている。一人で買い物に行かれる方には職員が距離を置きついていく。自分で自由に選べる楽しさ、支払うことの自信を大切にしたい。後でお店の方に金額・品物の確認をする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をしたいという希望があれば電話を職員が繋いであげている。今のところあまり希望がなく、年に数回。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	RC構造なので遮音性に優れ、窓を閉めると外部からの音はほとんど聞こえない。全室南向きであり、隣地との間隔も十分取ってあり、風通し、日差しも問題なく、よりよい環境を作っている。	居間、食堂は、風通しと日当りの良い南向きの明るい空間であり、壁面には催事の写真や利用者の書初め等が飾られて居心地の良い場所となっている。併設する小規模多機能と共用であり、多くの利用者が和やかに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	花に興味のある方は外に出てプランターの花を眺めたり、前に公園に行き近所の方々と思い思いに話をされたりしている。施設通路にはベンチを用意してあるので入居者同士がくつろげるようにしている。通路には手すりも設置してあり、歩行訓練をされる人もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリー対応型の一般賃貸マンションと同一の部屋のため、各戸に玄関・廊下・居間・台所・浴室・トイレ・ベランダが設置してあり、一人一人に適した家具調度品を用意している。今まで使用していた箪笥や三面鏡などを持ってきて居心地良く過ごされている。中には仏壇を持ってきた方もいる。	南向きで日当りが良く、各戸に玄関、廊下、台所、トイレ、浴室、ベランダがある独立性の高い居室である。テレビ、CDプレーヤー、箪笥、ソファ、椅子、時計等使い慣れたものが置かれ、過ごし易い雰囲気になっている。	居室は同一建物内一般賃貸マンションと同一仕様のため、利用者の支援、見守りについて難しい面が多いが、建物構造の変更は困難なので、今以上にきめ細かい介護を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的には建物全体が高齢者住宅規格になっており、バリアフリー・緊急呼び出しボタンを完備している。自室の認知が不可能な人にはそれぞれ特徴のある表示を設置し表示の高さも見やすい位置に工夫している。		